

■中国：「十二・五計画」期間中の電力投資 5.3 兆元

2011 年 1 月 8 日付報道によると、「電力工業第十二次 5 年計画」（以下、「十二・五」）研究策定グループの魏昭峰氏の試算による「十二・五」期間の電力工業への投資額は、「第十一次 5 年計画」期間比 68%増の 5.3 兆元となる。その内、電源への投資額は約 2.75 兆元で、全体の 52%を占め、2015 年の全国の発電設備容量は 14.37 億 kW（年平均伸び率 8.5%）で、水力 2.84 億 kW、揚水 4,100 万 kW、石炭火力 9.33 億 kW、原子力 4,300 万 kW、天然ガス 3,000 万 kW、風力 1 億 kW、太陽光発電 200 万 kW、バイオマス発電及び他の電源 300 万 kW になるとしている。流通設備への投資額は 2.55 兆元である。2015 年に、華北、華東及び華中地域を連系する、縦断方向 3 本、横断方向 3 本の特高圧送電線が整備される。縦断方向は、内蒙古、華北、陝西省の電源から華北と華東、華中地域に送電、横断方向は、北部の石炭火力発電所と西南地区の水力発電所の電力を華北と華中、長江デルタ地区の環状 UHV 系統に送電する。また、1 月 6 日に開かれた全国エネルギー活動会議では、「十二・五」期間に新規に着工する火力発電所の設備容量は 2.6 億 kW～2.7 億 kW で、2011 年度（2011 年 1～12 月）はコージェネと LNG 発電を含めた 8,000 万 kW が着工するとの見方が示された。